

みつくら 令和 6年 9月15日 第418号 発行 大瀬川活性化会議 編集 「みつくら」編集委員会 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2 大瀬川振興センター 電話45-6472 “お～い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”	で再び操業を開始し、感謝を込めた第3回岩泉ヨーグルト工場まつりを開催することができた。山下社長は、「私は経営者としてはズブの素人ですが、2023年度は29億5千万の売り上げを計上出来たのは、自分の直感を大切にこれまで来たから」と語っていた。講演後は5年ぶりに懇親会も開かれて、久しぶりに盛り上がった。	表彰 市老連石鳥谷支部ゲートボール大会 準優勝 大瀬川第一老人クラブ
八区農家組合が研修会を開催 9月1日に石鳥谷第八区農家組合（菅原純一組合長）は組合員29名と来賓、講師を含めた35名が参加して大瀬川振興センターで研修会を行った。 開会後菅原組合長は「今年は猛暑とゲリラ豪雨など異常な気候ですが、この研修を生かして地域を盛り上げて下さい」と挨拶した。続いて来賓の花巻農業協同組合理事の藤原正彦さんから「本年は春から気温が高い傾向にあり農作業は厳しいものがありました。稲作の作況指数は101のやや良となっています。間もなく概算金が示されますが、価格が上がる見込みですので皆様には良い知らせとなります」と挨拶があった。 研修会は3名の講師が講演を行った。最初に花巻農協石鳥谷支店組合員課長の佐藤秀和さんから「新農政の概要と課題」と題して集落営農ビジョンと人・農地プランの関係について、また水田活用の直接支払交付金の対象水田の見直しの説明があった。続いて岩手ヤクルト販売（株）の健康管理士米澤徳久さんから「健康を守る腸内細菌」と題して腸内環境についての面白い話を聞いた。「最近の食事は欧米化しておりガンの罹患率で第1位が大腸がんです。おなかの元気をアップするビフィズス菌の力を借りて腸内環境を改善することが大切です。また、便の色や形で腸内の環境が分かるので毎日気を付けましょう」と締めくくり2種類の試供品を全員に頂いた。 5分ほど休憩のあと、最後の講演が始まりラジオやテレビでおなじみの岩泉ホールディングス取締役社長の山下欽也さんから「岩泉乳業再建物語」と題して6分におたり講話を聞いた。山下社長は平成17年に累積赤字が2億8千万もある岩泉乳業に入社し平成21年には岩泉ヨーグルト社長に就任し、ブランド化により地の利を生かした六次産業化に成功して全国はもとより世界的にも認められる企業になった。その間には、東日本大震災のほか、平成28年の台風10号では壊滅的な被害を受けもうダメかと思ったが、地元はもちろん全国からの応援メッセージや国からの支援を受け1年1か月	九区農家組合で研修会 石鳥谷第九区農家組合（藤原咲子組合長）は9月1日、令和6年度の研修会を九区自治公民館で行い、来賓、講師2名を含め42名が参加した。研修会の開催にあたり、女性の参加を広く呼びかけ、いつもの集会とは異なり女性も多く参加した。藤原組合長は「今回は女性の活躍に注目した研修会としましたので楽しくお聴き下さい」と挨拶した。 最初は「農業から繋がる、広がる活動」と題し、2016年に花巻市内で農業に携わる女性の集まり「農花アグリヴィリーノ」を結成した代表の岡田千穂さん（新堀在住）による講演。学習会や視察研修を重ね仲間づくりとスキルアップを図り、それぞれの思いをかたちにしようと、マルシェで農産物を販売してきた。発足から10年が経ち、現在は30代から60代の15名で活動。県内で野菜や加工品の販売のほか、花巻市内の飲食店オーナーシェフの協力で、提供した農産物を使ったオリジナルメニューの開発をした。また、会員が講師となってご飯や野菜を美味しく楽しく食べる工夫を伝える講習会も開催。会員それぞれの特技を活かし、無理をせず、反省会を楽しく「やんべに」をモットーにして現在も活動していると話された。おわりに、マルシェではピンクのテントを目印に販売しているので是非お立ち寄りくださいとコマーシャルがあった。 続いて、八日市にある旧高一商店で「菓子工房アストラ」を経営している田野千佳子さんが「飲食でまちを盛り上げたい!!商店から地域に愛される定食屋へ」と題し「パーラーたかいち」誕生の経緯について講演を行った。父の高橋孝一さんが7年前に亡くなり仕出し業を廃業したあと、田野さんは商店が少なくなっていく町の現状に、皆が集う場所を作りたいという強い思いで、当時菓子工房アストラの廃業を決めた鎌田さんから機械を譲り受け、一から技術を習得。現在は市内にある産直にケーキや団子・大福などを販売するまでになった。菓子工房の空きスペースは母の弘子さんが「店が廃れるのがいやだ。食堂をやりたい」と、旧店舗を明るくおしゃれなテーブルやカウンター席にし、ランチと日替わり定食を提供。夜は最大30名ぐらい収容の宴会も出来る店舗に改装した。名前の「パーラーたかいち」は弘子さんが東京へ就職した時、羽田空港内のパーラーがとても素敵なお店だったため、是非この名前を入れたいと思っていたとのこと。最後に「今振り返れば、仕出し業の時からのお付き合いがあって色々な場面で助けられ現在に至っています。これからも皆さんが気軽に集える場所を提供しながら、菓子工房にも注文をお願いしたい」と締めくくった。講演の終了後、参加者は農家組合からの弁当とお茶を手土産に帰途についた。	6回目の草刈りを実施 下大瀬川美土里の会（高橋義晃代表）では、9月7日午前中に40名が参加して6回目の草刈りを行った。今年の草刈り作業は今回が最後となり、1回目と同じ幹線道路の草刈りを行った。まだまだ日差しも強く、それぞれに休憩をしながら、無事に事故もなく終了した。 惜しくも予選敗退 第40回全国高等学校カヌー選手大会は8月6日から大分県豊後高田市真玉B&G海洋センターカヌー場で行われ、新山家の菅原瑠生（るい、不来方高校1年）さんがカヤックシングル200m・500mに出場した。 500mでは、県大会の記録から32秒もベストを更新したが予選敗退となった。「大会期間は気温が40度もあり、厳しい暑さの中初めてのことばかりで緊張したが、200m・500mとも転覆はせず、記録が残せてよかった。来年は準決勝に残れるように練習に取り組んでいきたい」と話していた。 現在は新人戦に向け、さらにスピードの出る艇の種類に挑戦している。 大迫の写真展に大瀬川の滝 8月に早池峰カメラクラブの黒沼幸男さんの写真展「花巻の飛泉」が大迫交流活性化センターで開かれ、出展された写真14点のうち、大瀬川の滝「一の滝」「奥久名滝」「小檜沢の滝」「たろし滝」の4点が展示された。 一の滝は、滝壺に真っ赤な落葉が渦を巻いてる姿で、奥久名滝は、一直線に流れ落ちる滝の迫力ある姿が写し出されていた。 黒沼さんは他に、SL写真家としても著名な方である。 東北現展に板垣さんが出展 9月3日から6日までの5日間にわたって岩手教育会館で開かれた第9回東北現展に板垣弘清さんの写真が出展され、「7人会」が鑑賞した。出展した作品は「雪化粧」と題した写真で、9月6日の岩手日報には「モウソウチクの群落と枯れ木、残り柿に雪が降り積もる情景を切り取った」ものと紹介されていた。この作品は、先に東京で開かれた「現展」に出展したもので「会員推薦」に選ばれてもいる。鑑賞には、板垣さんが他の方々の作品も含め一点、一点解説をして頂いた。 鑑賞会に参加したのは、7人会の家族も含め菅原敬夫さん、菅原敦子さん、熊谷政男さん、熊谷幸子さん、菅原栄一さん、板垣寛さん、熊谷レイ子さん、菅原得之さんの8人であった。